

つたないお手紙を出してよいものか迷いながら  
ペンをとっておりました

失礼がありましたらお許しください

先生の抗がん剤10のやめどき。そして今回の新刊

読ませてくださいました。たいへん勉強になりました

抗がん剤10のやめどきを読んだときは、登場人物、それそれに  
共感して、涙かともうなうて、心が痛くなりました

私は、昨年、癌の手術を受け、標準治療中の身です

実は私も、並藤誠氏の著書は何冊か読んだりして、

先生のおっしゃる信者に片足を入れかかっていたのかも知れません  
しかし、自分か癌と分かったとき、父と二人暮らしの私は、

父を置いて逝くことはできない。一日でも父より長く生きなくては  
どうしよう。どうする。狂ったように調べはじめました

そんなことを繰り返していただきましたら偶然長尾先生のフログへ  
ヒットしました。

先生のフログで尊厳死のことも知り、すぐに申し込めました。  
先生のフログ・著書は大よむ助けでした。

今は再発転移が起った場合、冷静に動けるよう勉強中です。  
ただこの町には長尾先生のようなドクターはいません。

私は長期にわたり父の介護をしてまいりました。ですから

医者とはじめ医療関係者のいろんな場面と日に耳にしています。  
二十年程前の事でしょうか、ある医者が(誰もいないと思っただけでしょう)  
早く死ぬのはいいのに!! と叫びたのです。

これが医者の本音なのだ。受けた衝撃は忘れることができません。  
現在でも病室について質問しても、知らなくていい、調べなくていい  
と言われることも多々の本田舎の現状です。

地方であればあるほど、田舎であればあるほど医療関係者の  
モラルの低さは、悲劇を通り越しています。

長尾先生には想像すりてまいることではないうか  
患者とって信頼できるドクターに巡り会うことは奇跡です。

長尾先生、先生のお言葉や著書に多くの人が気づかされ、  
勇気をいただく救われているはずです。

患者さんのためにも、どうかご自身のおからだも大切に守って  
これからがんばってください。